

# シカ捕獲プロフィール

(関東局) 伊豆森林管理署

## 1. 署の基本情報

### ① 署の基礎的情報

管内面積	16,137.63ha		
シカ生息密度	30頭/km2以上50頭/km2未満		
管内市町村数	11		
	R3	R4	R5
更新面積	1.46ha	0.00ha	8.82ha
人工造林面積	1.46ha	0.00ha	8.82ha
シカによる森林被害面積	0.00ha	0.00ha	0.00ha
うち、人工林被害面積	0.00ha	0.00ha	0.00ha

※

### ④ 協定・協議会数

		R3	R4	R5
わな貸出	協定			
	協議会			
その他	協定	鍵貸与		
		除雪等		
	その他			
	協議会	3	3	3

### ② 署のシカ捕獲等対応体制

担当職員	森林技術指導官		
	森林育成担当		
	R3	R4	R5
全職員数	21人	21人	21人
わな講習受講者数	12人	14人	5人
狩猟免許所持職員数	0人	0人	0人

### ⑤ 捕獲の方法、実施時期

		R3	R4	R5
改良型わな等	小林式			
	こじやんと			
	その他	○	○	○
くくりわな		○	○	○
囲いわな		○	○	○
銃(モバイルカリング等)				
・ 捕獲実施時期				
職員実行	9月～3月			
委託事業	9月～3月			
協定	—			

### ③ 捕獲実行形態

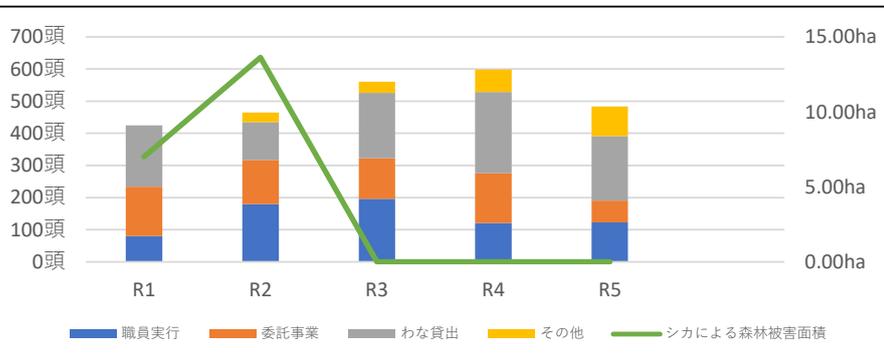
		R3	R4	R5
職員実行		○	○	○
委託事業		○	○	○
わな貸出	協定			
	協議会			
その他	協定	鍵貸与		
		除雪等		
	その他			
	協議会	○	○	○

### ⑥ 捕獲以外の被害対策

シカ防護柵実施有無	有
シカ忌避剤使用有無	有

## 2. 捕獲頭数とシカによる森林被害面積の推移

## ★森林被害対策のワンポイントアピール



	R1	R2	R3	R4	R5	
捕獲頭数	職員実行	80頭	180頭	196頭	121頭	123頭
	委託事業	154頭	137頭	127頭	155頭	68頭
	わな貸出	191頭	118頭	203頭	253頭	200頭
	その他	-	30頭	34頭	69頭	93頭
	計	425頭	465頭	560頭	598頭	484頭
シカによる森林被害面積	7.02ha	13.63ha	0.00ha	0.00ha	0.00ha	

### ①職員実行による捕獲

給餌(誘引)個所や仕掛けるわなの数、捕獲日数を増やしています。  
署職員全員がわな研修を受講して、署全体で取り組む体制を構築しています。  
⇒「4. 職員実行」をご参照ください。

### ②委託事業による捕獲

誘引餌(ハイキューブ)を活用して捕獲効率を高めているほか、ICT機器(オリワナシステム)の使用により見回り労力の軽減を図っています。  
⇒「5. 委託事業」をご参照ください。

※ シカによる森林被害面積は、森林被害年報における実損面積です。

### 3. 署長が語る

伊豆署でのシカ捕獲について

#### 【概要(静岡県管理計画)】

伊豆半島は温暖で積雪が少ないため、古来からシカが生息し、独立した個体群とされ、静岡県単独での対策を講じられることから、平成16年10月に、伊豆地域個体群を対象とした第1期の特定鳥獣管理計画が策定されました。

その後、目標頭数以上の捕獲を行いました。生息頭数が減少しなかったことから、平成29年度からの第4期では、推定生息頭数の最大値(32,000頭)の4割、年12,000頭以上の捕獲を続けたところ、生息密度は、減少傾向になったと推定されています。

しかし、依然、生息密度は高いレベル(24~37頭/km<sup>2</sup>)が続いており、令和4年3月に第5期の管理計画が策定されました。

第5期の管理計画では、伊豆地域はR2推定生息頭数約23,000~36,100頭、R2平均生息密度約24~37頭/km<sup>2</sup>とされており、目標を生息頭数4,600頭、生息密度3~5頭/km<sup>2</sup>以下と設定されています。

#### 【伊豆署での取組】

直営での捕獲(くくりわな)は、平成27年に試行、その後28年度から天城連山を中心とした4森林事務所で行い、令和4年度からは熱海地区の森林事務所でも捕獲が始まり、現在は全ての森林事務所で行う捕獲を実施しています。

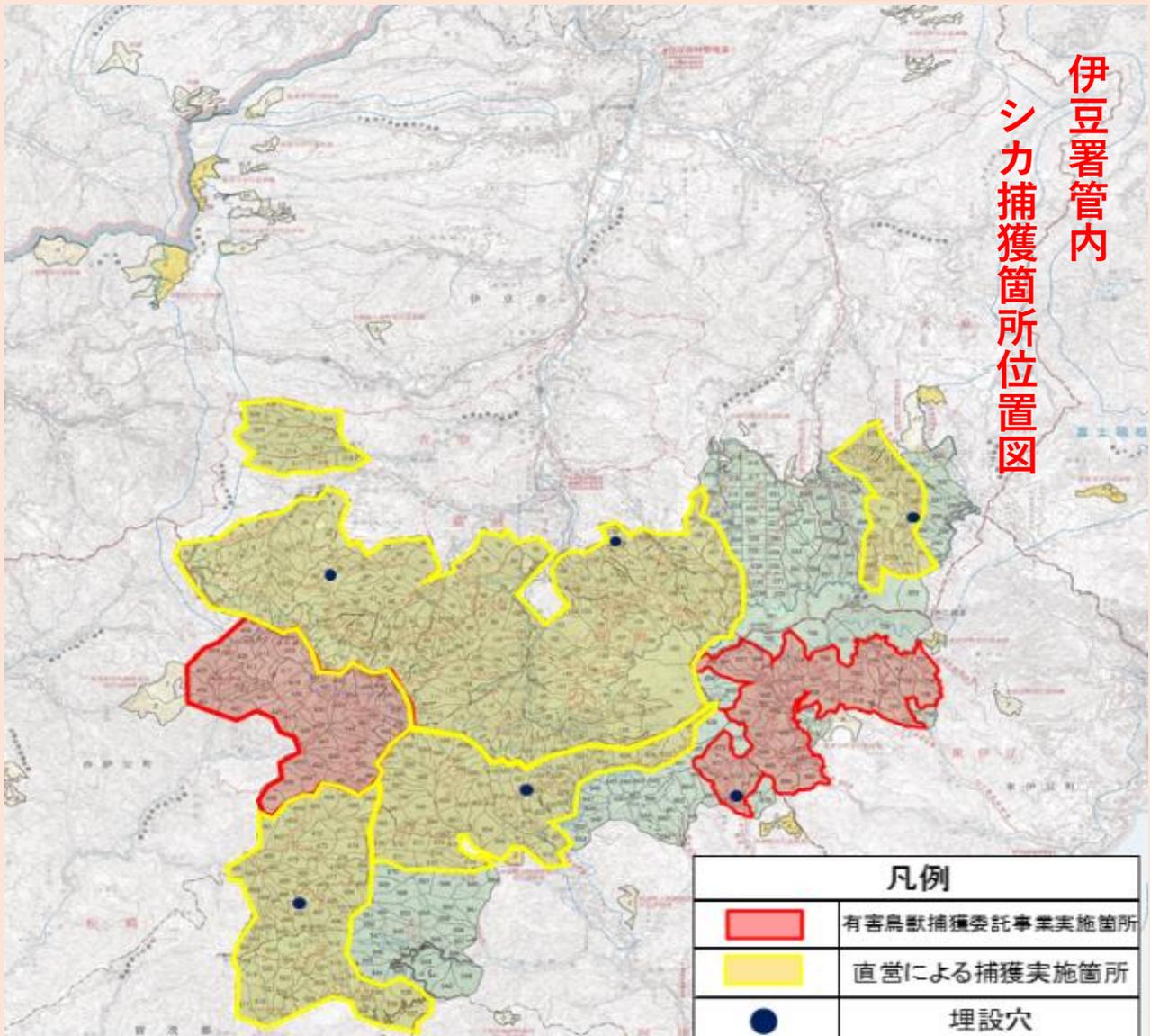
この捕獲は、森林事務所が主体の業務になりますが、署内も含めた全員参加を基本としており、職員全員がわな研修を受講しています。

ただし、捕獲はシカの命を奪う行為でもあることから、毎年、捕獲のそれぞれの作業(給餌・わな設置・止めさし・埋設等)について「できる・できないアンケート」を取り、職員個人の意向を確認することで、精神的な負担を避けるよう取り組むこととしています。

また、捕獲の作業で一番危険な止めさしについては、主に撲殺をしていますが、場合によっては、署に連絡し、応援が駆けつける体制にしています。例えば、イノシシが捕獲された場合は、非常勤職員で猟師の方に止めさしをお願いしています。このような方々に支えられて、直営での捕獲が続けられています。

このほか、錯誤捕獲で危険な動物として、クマ・カモシカが挙げられますが、伊豆地域の場合は、カモシカは生息しておらず、クマも生息数は少ないので、この点はやりやすいところです。

署長 岩崎 利行 (R5現職)



## 4. 職員実行

### ① 基本情報・トピック

わな講習受講者	21人
狩猟免許所持職員数	0人
実施職員の構成	
わな講習受講者全員	
非常勤職員	
共同実施者の有無	無

★署として工夫していること、ポイント

- └ 目撃情報・被害個所等により誘引捕獲個所を設定しています。
- └ 誘引餌に誘引効果を高める工夫をしています。
- └ 誘引期間を延長しています。

### ② 安全対策

- └ 年度当初において有害鳥獣捕獲に関するアンケート調査を実施しています。
- └ 有害鳥獣捕獲に際しての計画書を作成しています。
- └ シカ捕獲に係る安全対策マニュアルを作成しています。
- └ 緊急連絡体制を周知徹底しています。

### ③ 職員実行の流れ

#### 実施期間・時期の決定

- └ 実施主体が各森林事務所なので、各業務との兼ね合いを見て実施期間・実施時期を決定してます。
- └ わな設置期間は月曜日に設置し、金曜日に回収しています。

#### 実施場所の決定

- └ 目撃情報、誘引効果が高い箇所、獣道等を勘察してわな設置個所を決定しています。



くくりわなの設置

#### わなの設置

- └ 「空はじきしらず」「渡部式R型」を使用しています。
- └ 誘引餌はハイキューブを使用しています。



#### 見回り

- └ 基本二人一組での見回りとしています。
- └ 人員配置が難しい場合は、非常勤職員及び署からの応援で対応しています。



止めさし時の確実な保定

#### 止めさし

- └ 基本的には「電気止めさし」を用い、状況によっては安全な方法により処分を行っています。
- └ 錯誤捕獲(イノシシ)については、猟友会に要請して安全な方法により処分します。

#### 処理・埋設

- └ ジビエ利用は行っていません。
- └ 林道脇に埋設穴(1.5m四方、深さ1.5m)を森林事務所の実情に合わせて数カ所作設し、埋設しています。

#### ボトルネック

- └ 食肉加工場への搬入者は登録制で、止めさしから搬入までの時間が決められておりジビエ利用について難しい状況です

#### 前年度の実績(森林被害面積抑制、捕獲頭数増加)を更に伸ばすために予定していること

- └ 捕獲頭数がここ3年停滞(年間120頭前後)していること。依然として伊豆地域では生息密度が高いことから、これまで捕獲があまり行われていなかった4月から6月にかけての時期に、塩水等によるメスジカを選択的に捕獲する新技術の検証を行う予定です。

## 5. 委託事業

### ① 基本情報・トピック

応札者数  (1事業あたりの平均)

#### ★目標頭数の決め方

前年度県が実施した生息密度調査の数値を基準に目標頭数を決定しています。

### ② 特記仕様書での工夫

特になし

### ③ 委託実行の流れ

#### 実施期間・時期の決定

└ 予算・示達に合わせ実施しています。  
└ 当年度については、8月入札、9月～3月の実施です。  
└ 行動が活発になるニホンジカの発情期に合わせ、捕獲時期を決定しています。

#### ボトルネック(※1)

└ 豪雨・台風等自然災害が発生した場合の捕獲日数の確保

#### 改善策(※2)

└ 委託期間の延長

#### 実施場所の決定

└ 監督職員等(森林官等)との打ち合わせにより、捕獲が可能な場所を選定しています。また、給餌して誘引効果が高い箇所を実施しています。



くくりわなの設置

#### わなの設置

└ 捕獲従事者を含む2名1組で実施し、誘引剤はヘイキューブを使用しています。  
└ わなについては、「空はじきしらず」や「渡部式R型」を用いており、いずれの場合もICT機器(オリワナシステム)とセットで使用しています。

#### オリワナシステムの設置状況



子機



中継器

#### 見回り

└ 捕獲従事者を含む2名1組で実施しています。

#### 止めさし

└ 保定後に処分(推奨は電気止めさし)を行っています。  
└ イノシシ等の錯誤捕獲については、安全な方法により処分をしています。



親機

#### 処理・埋設

└ 埋設穴へ集合埋設しています。

#### 前年度の実績(森林被害面積抑制、捕獲頭数増加)を更に伸ばすために予定していること

└ スレジカ対策として、センサーカメラを増設(30→40)してモニタリングを強化し、スレジカの行動を把握します。  
└ 小林式誘引捕獲、竹内式誘引捕獲※を検討します。  
※竹内式誘引捕獲・・・静岡県森林・林業研究センターが開発した誘引捕獲法

※1 全体に影響する問題要因で最も問題視される要因のことです。本票では各取組業務を妨げる要因として取り扱います。  
※2 ボトルネックを解消するための方法です。